

富山県魚津市に漂着したハナゴンドウ Grampus griseus

著者	田島 木綿子, 山田 格, 南部 久男
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	35
ページ	107-108
発行年	2012-03-10
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=959

短 報

富山県魚津市に漂着したハナゴンドウ *Grampus griseus*

田島木綿子¹⁾, 山田格¹⁾, 南部久男²⁾

¹⁾ 国立科学博物館 動物研究部

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

²⁾ 富山市科学博物館

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

Note on a Risso's dolphin stranded at the coast of Uozu-city, Toyama prefecture, Sea of Japan.

¹⁾ Yuko Tajima, ¹⁾ Tadasu K. Yamada and
²⁾ Hisao Nambu

¹⁾ National Museum of Nature and Science, Department
of Zoology; 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki
305-0005, ²⁾ Toyama Science Museum; 1-8-31,
Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-
8084, Japan

はじめに

富山湾の鯨類相については、南部らによるストランディ
ング調査等が継続的に行われ、一部の個体については剖
検が行われ、解剖結果など報告した(南部ら, 2005; 真柄
ら, 2009, 2010)。今回、魚津市で漂着したハナゴンドウ
Grampus griseus は新鮮な死亡個体であったため、計
測や剖検を行ったので報告する。

方法

調査個体は、2011年3月14日に魚津市北鬼江の海岸に
漂着した個体で約1日冷凍され、15日には国立科学博物
館へ搬送後同16日に計測、剖検を行った。なお、漂着状
況は南部ら(2011)で報告した。

結果

計測値

1. 性別 オス
2. 体重 136kg
3. 計測値 (cm) 左側
体長 201.7
上顎先端 - 口角 18

上顎先端 - 目	25.7
上顎先端 - 噴気孔	24.2
上顎先端 - 耳	31
上顎先端 - 胸びれ前	39.7
上顎先端 - 背びれ前	88
上顎先端 - ヘソ	92
上顎先端 - 生殖孔	119
上顎先端 - 肛門	137
胸びれ前縁長	40.3
胸びれ後縁長	29.7
胸びれ基底長	14
胸びれ最大幅	12.4
背びれ基底長	38
尾びれ最大幅	46.5
尾びれ前縁長	左32.4, 右33
尾びれ基底長	左5.9, 右6.0
尾柄幅	4.7

剖検結果

1. 外貌所見

外形：表皮は全身に残存し、体色が確認できる。体形は
滑らかな流線型を呈し、削瘦は認められず(図1)。
外傷：ハクジラ類の歯によると思われる咬傷跡が体壁に
認められる。羅網跡、食害、外部寄生虫などは認
められず。

脂皮：湿潤性および弾力性健在。著変なし。

筋肉：暗赤褐色を呈し、弾力性健在。著変なし。

乳腺：確認できず。

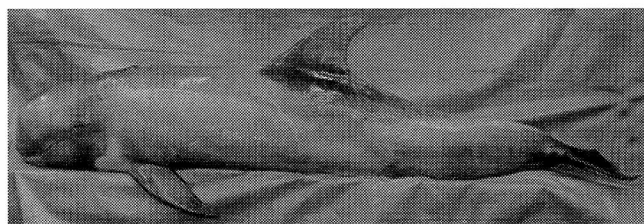


図1 魚津市に漂着したハナゴンドウ

4. 内臓所見

胸腔：各臓器の位置関係は著変なし。

腹腔：各臓器の位置関係は著変なし。

〈消化器〉

肝臓：辺縁は鋭。表面および割面は暗赤色を呈し、
弾力性健在。著変なし。

食道：粘膜は白色角化上皮が裏打ちする。弾力性健在。
著変なし。

胃：前胃；内容物はイカ類ピーク数個、イカ類肉質部破

片および頭足類目玉数個残存。粘膜は白色角化上皮が裏打ちする。弾力性健在。

主胃：粘膜は灰赤桃色を呈し、弾力性健在。

幽門胃：粘膜は淡黄褐色を呈し、弾力性健在。全胃を通して著変なし。

腸管：十二指腸膨大部；粘膜は淡黄褐色を呈し、弾力性健在。それ以下の部分；ガス貯留なし。内容物は全長に渡り存在し、上部では淡黄色、下部にいくと少量の濃茶緑色粘液状ないし流動物。粘膜はヒダ明瞭、弾力性健在、淡黄色調を呈す。著変なし。

脾臓：弾力性健在。表面および断面ともに灰赤桃色を呈し、小葉構造明瞭。著変なし。

<泌尿生殖器>

腎臓：左右ともに断面において皮質は赤褐色、髄質は暗赤色をそれぞれ呈し、境界明瞭。著変なし。

膀胱：透明黄色非粘性尿約4cc貯留あり。粘膜は淡桃色を呈し、弾力性健在。著変なし。

精巣：成体の大きさに達していない。断面は赤桃色を呈し、精液は認められず。

精巣上体：発達しない。蛇行しない。精液は認められず。

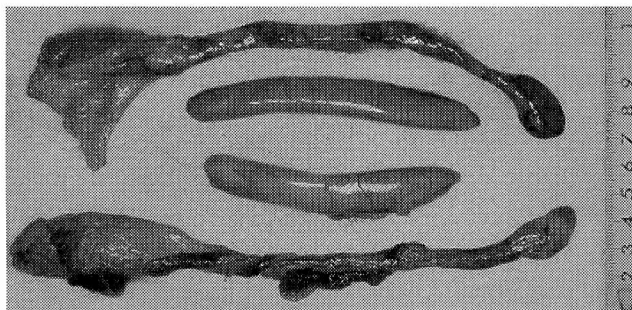


図2 ハナゴンドウの精巣（中央）と精巣上体

<循環・呼吸器>

心臓：外形正常。心筋は赤褐色を呈し、弾力性健在。心内膜、各弁、大血管内膜それぞれに著変なし。

肺：左右ともに表面は淡桃色を呈し、高度に膨満する。断面は一様に著しく含気性に富み、スポンジ状外観を呈す。気道粘膜は著変なし。

<内分泌器>

甲状腺：外形は、まが玉状を呈す。表面および断面ともに暗赤色を呈し、弾力性健在。著変なし。

副腎：断面において皮質は赤褐色、髄質は灰赤色をそれぞれ呈し、境界明瞭。著変なし。

<リンパ器>

脾臓：外形は丸みを帯びたクリームパン状を呈す。断面は暗赤色を呈し、脾粥に富む。著変なし。

胸腺：塊状に明瞭。灰赤桃色を呈す。表面および断面に

おいて小葉構造明瞭。

腸間膜リンパ節：帯状に存在。軽度に腫大する。断面は淡黄褐色を呈す。

浅頸リンパ節：軽度に腫大する。断面の約半分が赤桃色、残り半分が淡黄褐色をそれぞれ呈し、浮腫状。

後下顎リンパ節：軽度に腫大する。断面は赤桃色部と淡黄褐色部が不規則に混在する。

<頭部>

頭蓋洞：翼状洞に寄生虫を認めない。粘膜著変なし。

中枢神経系（脳）：外形正常。硬膜うっ血する。

考察

本調査個体は新鮮であったため、詳細な病理解剖を実施することができた。剖検の結果、漂着ならびに死因に繋がる所見は認められなかった。高度な肺気腫が認められたが、これは死戦期に起きた急性のものと判断される。ハナゴンドウのオスの成体の体長は約260～310cmとされ（Kasuya and Izumisawa,1981）、本調査個体の体長からまだ身体的に未成熟個体で、親と共存する必要がある個体である可能性が否定できないが、胃内容物から餌生物の残渣が観察されたため、離乳個体であり、単独で生存することは出来る年齢と判断された。しかし、生殖腺の観察からは、性的には未成熟な個体であると考えられる。

謝辞

調査に際し、魚津市農林水産課、魚津漁業協同組合、富山県鮭鱒漁業協同組合、魚津水族館にご協力いただきました。柏谷俊雄博士には文献をご教示いただきました。皆様に心よりお礼申しあげます。

文献

- Kasuya and Izumisawa,1981.The fishery-dolphin conflict in the Iki Island area of Japan (Report No.MMc-80/02 prepared for U.S. Marine Mammal Commission. Washington,D.C.) 31pp.
- 真柄真実・田島木綿子・谷田部明子・山田格・坂井恵一・福島広行・横井将大・吉田俊憲・台蔵正一・南部久男,2009.石川県珠洲市に漂着したオウギハクジラ.富山市科学博物館研究報告,32:117-120.
- 真柄真実・栗原望・山田格・南部久男・石川雄士,2010.富山県氷見市に漂着したハンドウイルカ.富山市科学博物館研究報告,33:109-112.
- 南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田格・田中豊・大田希生,2005.富山湾における鯨類の記録(2004年),富山市科学文化センター研究報告,28:91-94.
- 南部久男・田島木綿子・山田格,2005.富山湾における鯨類の記録(2011年).富山市科学博物館研究報告,35:107-109.